

# 災害 備えの大切さ実感

陸前高田に派遣 大学生消防団が報告会



被災地で見聞きしたことを発表する大学生消防団＝北区の愛知学院大名城公園キャンパスで

東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市に昨秋、名古屋市の「市民交流団」として訪れた大学生消防団が二十二日、派遣報告会を北区の愛知学院大名城公園キャンパスで開いた。

陸前高田に職員を派遣して支援を続けている。交流団は、防災学習や市民同士の関わりを目的に昨年十一月に被災地を訪問。普段は市内の七つの大学で大学生消防団として活動している八人も一員として参加した。

報告会では、震災遺構を視察したり、陸前高田市の関係者から震災時の話を聞いたこと、発表したり。避難所の運営にあたった元市職員からは「トイレの掃除が大切」「住民名簿がなく、安否確認に手間取った」などの体験を聞いたと紹介した。参加した名城

大三年の北村龍哉さん（三）は「実際に現地で話を聞いてよかった。災害時は若い力が必要。人ごとだと思わず、普段から備えを気にかけたい」と話した。

（横井武昭）